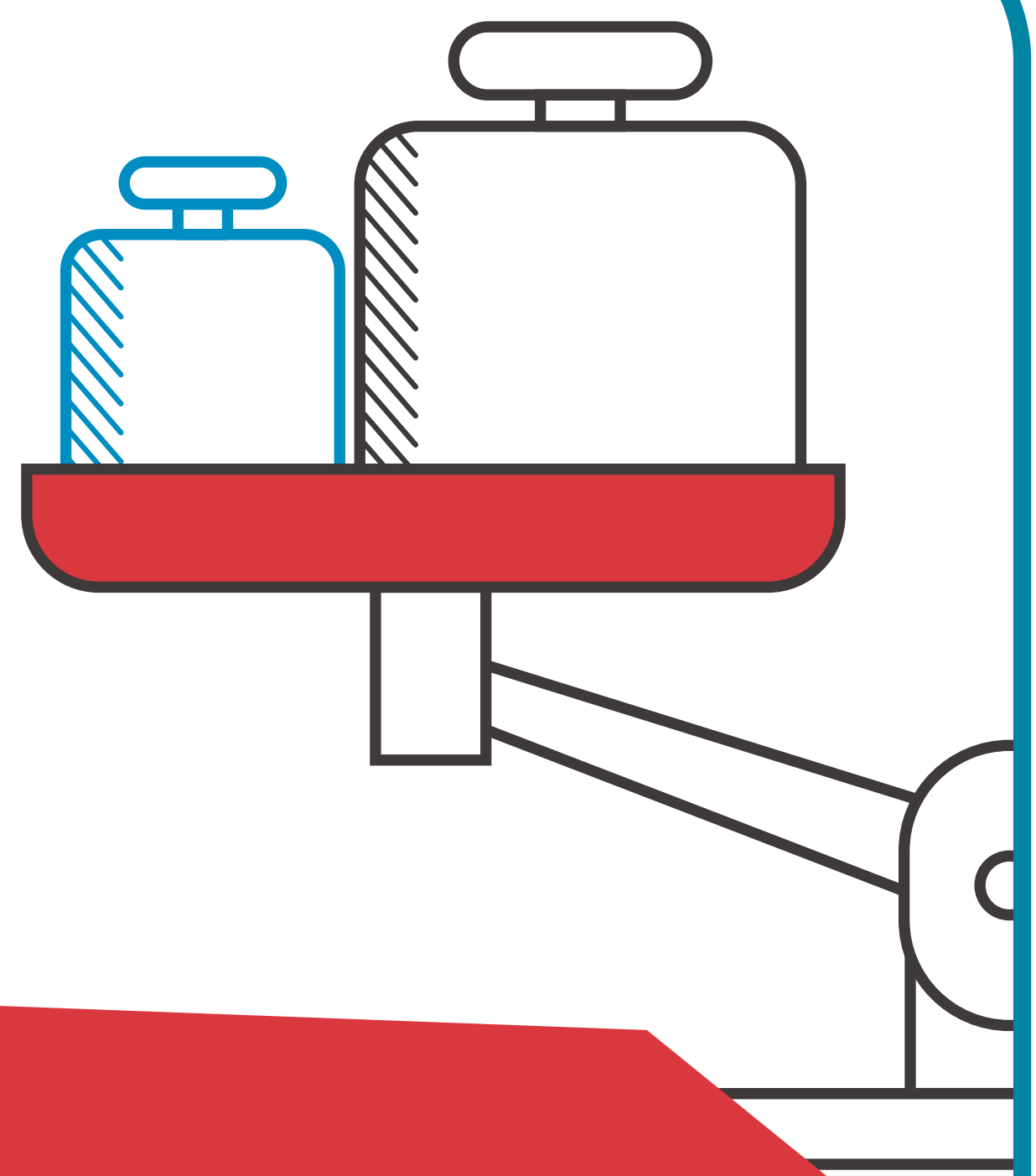


リスクへの対処

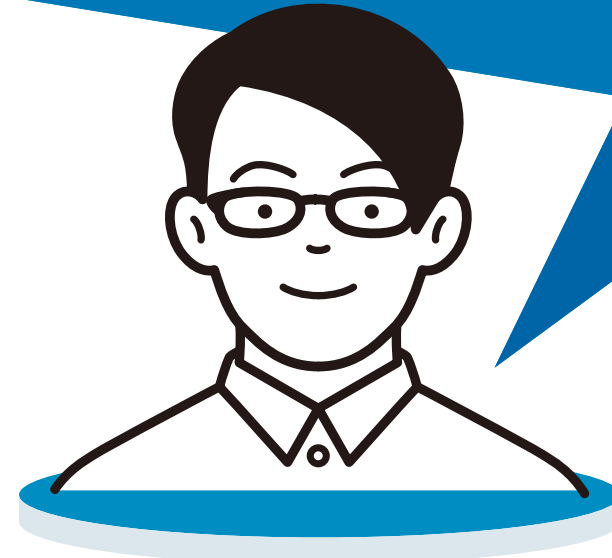
リスク天秤という道具



「この場所の空間線量は
0.06 μ Sv/h」といわれても…。



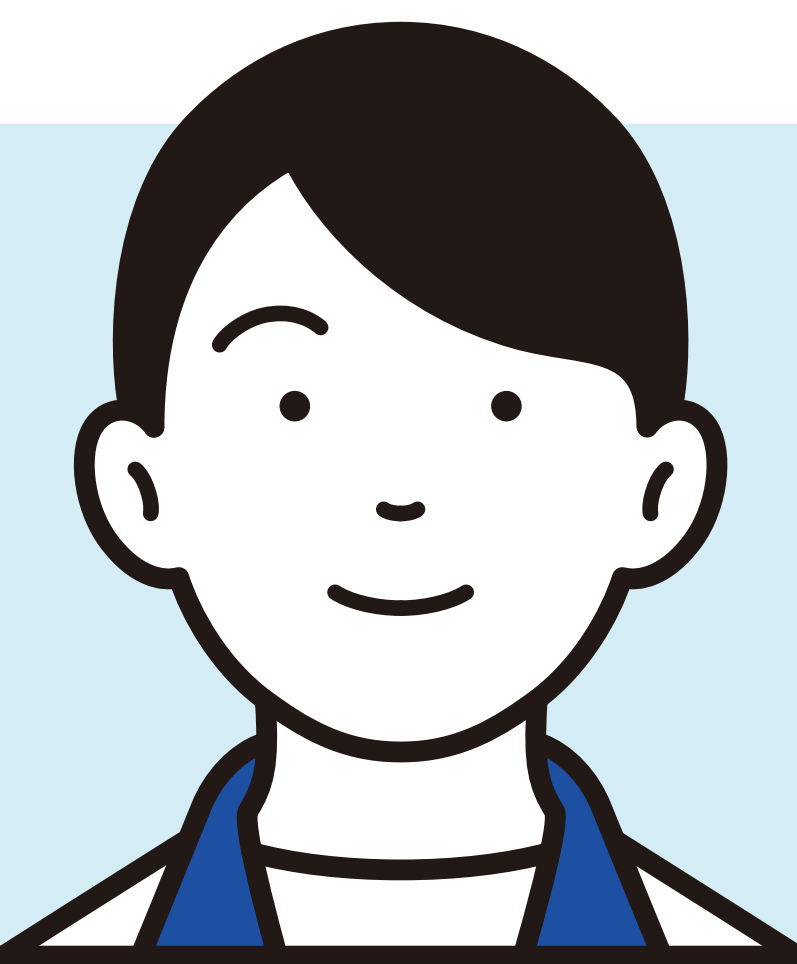
病気をみつけるために使う
レントゲンが、体に悪って
どういこと？



安全 - 危険のしきい値がない
のであれば、どこに教育の終着
点をもってくるのが難しい。

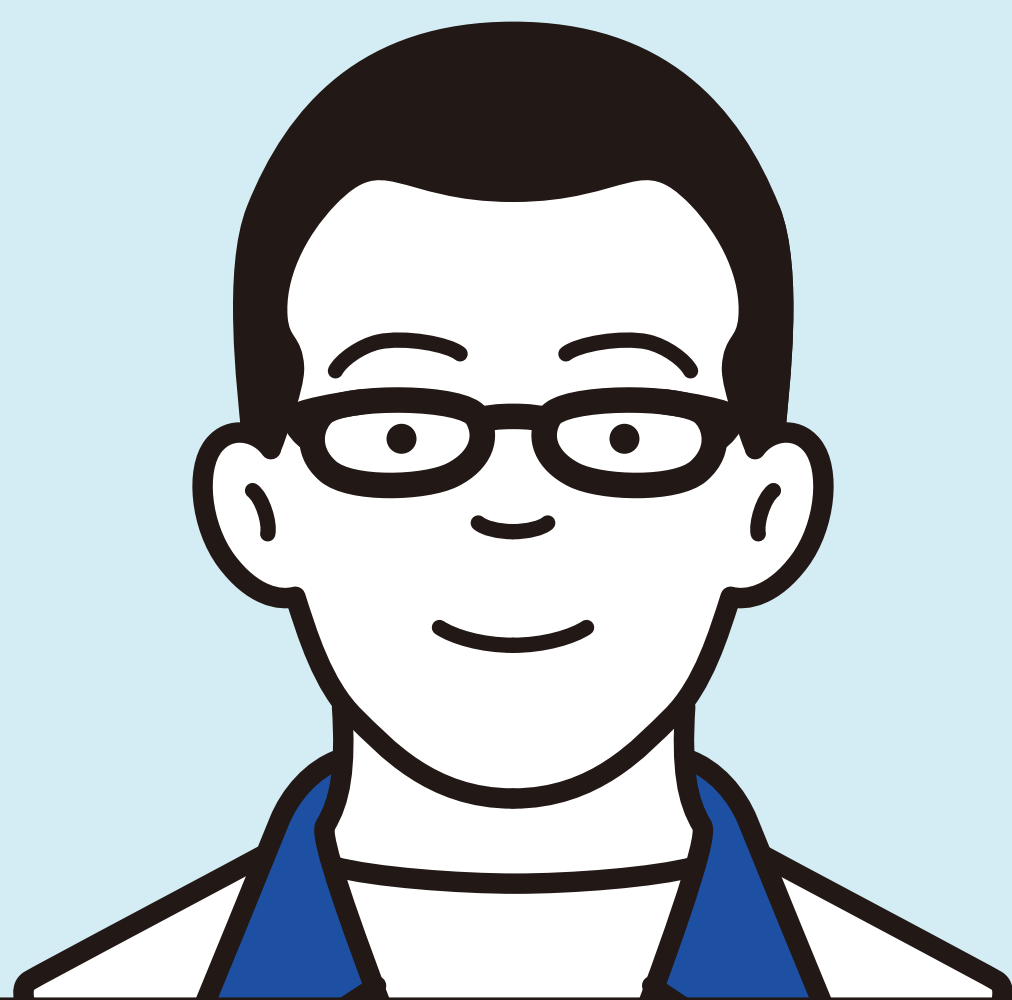
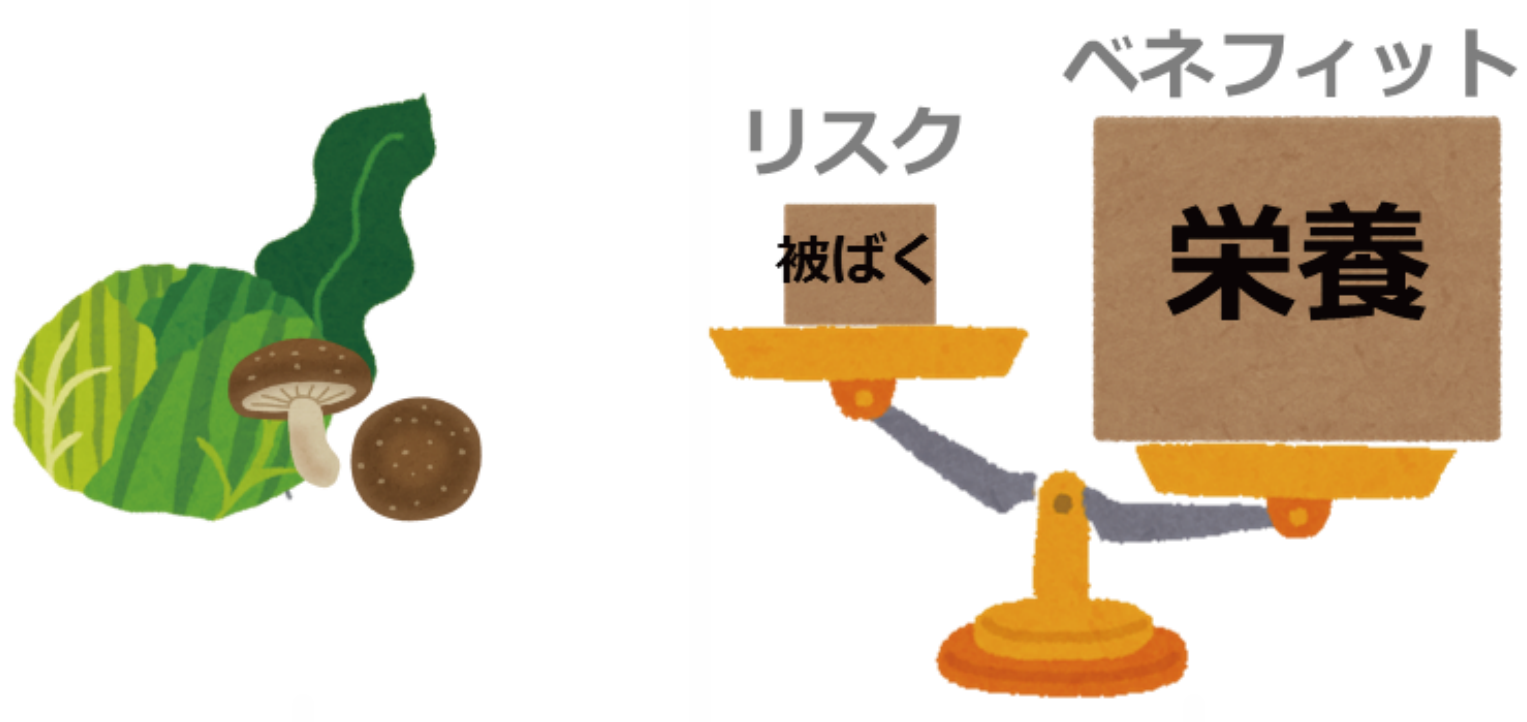


このような声をもとに、ワークショップをつくっています



あなたならどっち？

あなたの日々の食事には
放射性物質が含まれています。
食べる？ 食べない？



あなたならどっち？

ニューヨークに旅行のチャンス！
飛行機に乗る？ 乗らない？



1 リスクとベネフィットを 天秤にかけて判断する

発がんリスクを下げるために放射線被ばくを避けることが、別のリスクを引き起こす可能性もあります。リスクを完全にはゼロにできない以上、リスクの程度を定量的かつ、相対的に評価するフレームによって、リスクを選択するための判断を下さなければなりません。そのための道具として、リスクとベネフィットを天秤にかけて判断する方法を紹介します。

例として、私たちが日々当然のように行っている「食べ物を食べる行為」を、「放射性物質の摂取による被ばくリスクと、生きるために必要な栄養を摂るベネフィットとを天秤にかけて判断した結果である」という視点でとらえなおします。

2 個人の価値観にもとづく 評価も重要なおもり

リスク天秤にのせるおもりは、科学的な定量評価をもとにしたおもりばかりではありません。同じ事象であっても、人々のもつ価値観の違いによって、そのリスクとベネフィットに対する判断が異なってくる場合もあります。

たとえば、ニューヨークへ旅行するのに、船でなく飛行機を使う理由は、宇宙線による被ばくを普段より余計に受けるというリスクに比べて、目的地により短時間で到着できるベネフィットのほうが大きいと判断できるからですが、「海を近くで見られる」ことをより大きなベネフィットと考え、船を選択する場合もあり得ることを示します。

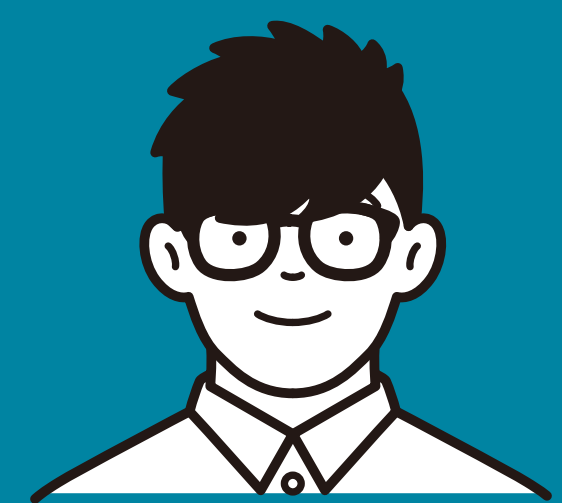
このことから、「個人の価値観」にもとづく評価も、天秤にのせるべき重要なおもりであり、リスクを選択する最終的な判断を下す役割は、誰が担うべきなのかについて考えてもらいます。

参加した生徒の声

(受講後のアンケートより)



最初は放射線は体に悪いとしか思っていなかったけれど、医療で役立ったり、普段の生活でずっとあびているものなので、上手に付き合っていくことが大切なんだとわかりました。



放射線という普段聞かない言葉を聞いて、自分には直接関係ないと思っていましたが、今回のワークショップで、今こうしている間にも放射線をあびていることがわかり、他人事ではないと実感しました。これからの行動は、リスクとベネフィットを考慮してからするよう心がけたいです。



運動不足や野菜不足で発がんリスクが高くなってしまふから、しっかり自分で考えて行動しようと思いました。